



2025年度
国際キャリア教育プログラム

国際キャリア教育 事前学習資料集

主 催：大学コンソーシアムとちぎ 宇都宮大学
後 援：(公社) 栃木県経済同友会 (公財) 栃木県国際交流協会、
NPO 法人宇都宮市国際交流協会 JICA 筑波センター
協 賛：(公財) あしぎん国際交流財団
特別協力：宇都宮市創造都市研究センター

目次

(敬称略)

目標とルール	1
はじめに	2
実施要綱	4
プログラム	5
倫理綱領・個別ガイドライン・問題事例	6
「全体講義」との講師の紹介（吉田 一彦）	
今が「事を起こす」時かも！？－自分らしく国際的に活動するためのヒント－	7
分科会 A と講師の紹介（キム ヒジョン）	
グローバルキャリアをデザインする：イノベーションの最前線で『働く』とは？	9
分科会 B と講師の紹介（カバリェロ 優子）	
自分の強み、個性、ライフステージを見据えた国際協力	11
分科会 C と講師の紹介（岩井 俊宗）	
異文化を繋ぎ、価値創造に展開するコーディネーター	13
分科会 D と講師の紹介（梁 鎮輝）	
「共感」から考える多文化共生	16
分科会 E と講師の紹介（吉田 一彦）	
英語が苦手でも英語で国際交流・国際協力していこう	19
分科会 F と講師の紹介（林 明夫）	
多様な集団で交流する能力を身に着けよう	22

●目標とルール

国際キャリア教育セミナーの参加者はルールを守り、目標の達成に向けて励んでください。

目標

- 「働く」とはということなのかについて考える。
- 自分と地域社会や世界とのつながりについて考える。
- 主体的に関わりたい分野を見つけ、今後の学びに向けた“きっかけ”を得る。

ルール

- どんな意見も臆せず、積極的に発言しよう。
- 一人ひとりが参加者の自覚をもとう。
- 異なる意見を尊重するとともに自分の意見をもとう。
- 自分独自の意見を述べよう。
- 多様な発想を生み出す雰囲気をつくろう。
- 時間厳守で行動しよう！
- 安全、健康に注意をしよう。

●はじめに

国際キャリア教育プログラムに参加される皆様

国際キャリア教育運営委員会 委員長
国際学部国際学科 教授
吉田 一彦



宇都宮大学、大学コンソーシアムとちぎ、そして全国の大学生、社会人の皆さん、国際交流に関心がある高校生の皆さんも、国際キャリアについて考えたことがありますか。

大学時代に、就職活動に入る前に、国際キャリアのプログラムに参加してみたい、国際的な問題に対応する職場や海外で国際インターンをしてみたい、あるいは今、政府、企業、大学で叫ばれている、「グローバル人材」の育成のためのプログラムに参加してみたいと思う方がいるかもしれません。

そのように考えている皆さんのニーズに応えるのが、グローバルマインドを養う「国際キャリア教育プログラム」です。本プログラムは、宇都宮大学国際学部や栃木県の大学が中心になって2004年から毎年実施され、参加者数は過去21年間合計2327名（宇都宮大学1497名、外部参加者830名）となっています。2020年より、新型コロナウイルス感染症流行への対応のためのオンライン化によって、海外からの参加も可能になり、英語でセミナー全体を行う「International Career Seminar」へは、本学交流協定校であるペラデニヤ大学(スリランカ)、サラワク大学(マレーシア)、タマサート大学(タイ)、および王立ブノンペン大学(カンボジア)から多数学生の参加があり、国際交流実体験の場としての学修効果を生んでいます。

このプログラムの科目は、学生が生きることや働くことの意味について考えるという点で共通の「国際キャリア教育」(日本語によるセミナー)と、「International Career Seminar」(英語によるセミナー)、そして、国内や海外の企業、公的機関、NGO・NPOで専門業務を経験する「国際キャリア実習」の3科目、6単位で構成されています。いずれも夏季と春季の休業期間に行われます。2つのセミナーはどちらも3日間の集中講義形式で、共通テーマを「グローバル化時代の地域とキャリア」とし、「地域からのグローバル化(Globalization)」、「地域のグローバル化(Glocalization)」の2つの柱を立て、国際ビジネス、国際協力・国際貢献、多文化共生と日本、異文化理解・コミュニケーションの4つのテーマで分科会を構成します。各分科会では、その道のプロの専門家や講師を揃えています。一方、総時間数80時間で行われる「国際キャリア実習」は、国内・海外の魅力的で個性的な研修先を用意しています。3科目すべての履修を勧めますが、1つか2つを選択して受講することも可能です。

「国際キャリア教育プログラム」は、毎年宇都宮市や栃木県内だけでなく、全国から優秀な大学生、社会人が多数参加します。皆さんもこのプログラムに参加して、国際キャリアについて一緒に学び、国際社会や地域社会への「キャリアパス」の可能性を探っていきましょう。

最後に、本プログラムは、栃木県からの支援を受けて、大学コンソーシアムとちぎとの共同事業として企画しましたが、その実施に際しましては、(公社)栃木県経済同友会、(公財)栃木県国際交流協会、NPO 法人宇都宮市国際交流協会、そして、JICA筑波センターからご後援をいただきました。また、(公財)あしぎん国際交流財団からはご協賛、宇都宮市創造都市研究センターからは特別協力をいただきました。ご関係の皆様からの多大なご理解とご支援に対し、主催者を代表して、厚くお礼申し上げます。

●実施要綱

- 1) 科 目 名 : 国際キャリア教育 2025
- 2) テ ー マ : グローバル時代のキャリア形成を考える
- 3) 日 程 : 事前指導 : 2025年7月23日(水) 18:00-19:30
セミナー : 2025年9月13日(土) ~15日(月祝)
- 4) 実施形態 : Zoomによるオンライン授業
- 5) プログラム : 4頁を参照
- 6) 参加定員 : 50名
- 7) 参加費 : 無料 ※ネットワーク通信料等は自己負担となります
- 8) 問 合 せ : 国際キャリア教育プログラム 事務局
宇都宮大学 峰キャンパス事務部国際学部係 (5号館C棟1階) 内
担当 : 佐藤
<所在地> 〒321-8505 宇都宮市峰町 350
<問合先> TEL: 028-649-5172 (直通) FAX: 028-649-5171
E-mail: kokuca@a.utsunomiya-u.ac.jp

●プログラム（敬称略）

事前指導（7月23日 水曜日）

時 間	内 容
18:00～18:45	受付、全体会事前指導
18:45～19:30	分科会事前指導

セミナー1日目（9月13日 土曜日）

時 間	内 容
09:00～09:30	受付
09:30～09:50	開講式・オリエンテーション
09:50～12:00	全体会（全体講義・ブレイクアウトセッション）
12:00～13:00	昼食
13:00～15:10	パネルトーク「グローバル時代におけるキャリア形成について」
15:10～15:30	趣旨説明（分科会および全体発表のプレゼン方法の説明など）
15:50～17:50	分科会 1 分科会 A「国際ビジネス」 講師：キム ヒジョン 分科会 B「国際協力・国際貢献」 講師：カバリエロ 優子 分科会 C「国際化とガバナンス」 講師：岩井 俊宗 分科会 D「多文化共生と日本」 講師：梁 鎮輝 分科会 E「多文化共生と日本」 講師：吉田 一彦 分科会 F「異文化理解コミュニケーション」 講師：林 明夫

セミナー2日目（9月14日 日曜日）

時 間	内 容
08:30～12:00	分科会 2
12:00～13:00	昼食
13:00～15:30	分科会 3
15:30～16:30	分科会 4（分科会まとめ・中間発表準備）
16:30～17:30	中間発表
17:30～18:30	分科会 5（発表準備）

セミナー3日目（9月15日 月曜日）

時 間	内 容
08:30～10:00	発表準備
10:00～12:40	全体発表
12:40～13:30	昼食
13:30～14:30	ふりかえり
14:30～14:40	閉講式

●倫理綱領・個別ガイドライン・問題事例

1. 国際キャリア教育プログラム倫理綱領

本プログラムの関係者は、以下の原則に従って行動します。

- ① その活動において、常に基本的人権と個人の尊厳を尊重します。
- ② 国際学部並びに本プログラムの教育目標の実現に資する教育を行うために、改善と向上に努め、学生の自発的な学習を支援します。
- ③ 学修目標を明確に示し、学生への対応や成績評価などの学生指導全般において、公正を確保します。
- ④ 個人情報保護に最大限の注意を払います。

2. 倫理綱領に基づく個別ガイドライン

以上の倫理綱領に基づき、特に以下の点について配慮をお願いいたします。

- ① 人種やジェンダー、言語、宗教、国籍、社会的背景、年齢等が異なる多様な参加者で構成されているプログラムであることに留意しつつ行動します。
- ② 食事や信仰生活を含む生活様式を尊重し、可能な限り対応します。
- ③ ハラスメントに該当する行為は決して行いません。
- ④ ハラスメントに関する情報を得たり相談を受けた場合には、放置せずに対応します。
- ⑤ 参加者による主体的な学びを尊重し、その提案や意見を積極的に取り入れます。

3. 具体的な過去の問題事例

(事例にある「参加者」とは、講師、スタッフ、学生等の参加者全員を意味します。)

事例 1) 国籍による差別発言

ある参加者から「A 国人は物を盗む」といった国籍による差別的な発言があり、その国籍を有する他の参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

事例 2) ジェンダーや多様性への配慮を欠いた発言

ある参加者が、男性的な服装をしている女性の参加者に対して、「いい歳なのだから、もう少し女性らしくしないと」とジェンダーに関する配慮に欠ける発言があった。その結果、トランスジェンダー¹であるその女性参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

事例 3) ハラスメントに該当する行為や発言

ある男性参加者が懇親会で他の参加者に酒を飲むようにしつこく勧め、男女問わず「付き合っている人はいるのか」等と質問をして無理に答えを聞こうとしたり、女性の参加者に対して酔っ払いながら「肩をもんでくれ」と頼んだりした。

事例 4) 主体性や協働を認めない教育

分科会において講師が一方向的に講義を続けたり、一部の参加者のみが発言を独占する事態が発生した。その結果、学生たちが主体的に協力しながら行う議論や全体発表準備のための作業時間を、十分確保することができなかった。

事例 5) 許可を得ないで行う個人情報や写真の使用

ある参加者が、他の参加者の連絡先などの個人情報や撮影した写真を、相手の許可なく SNS などを使って公開し、別の目的で利用した。

¹ トランスジェンダーとは、出生時に決定された性別に性的違和（性同一性障害）があり、性別を変えて生活していたり、性別を変えたいと思っている人（性と人権ネットワーク作成パネル、2014年より）。

今が「事を起こす」時かも!?

—自分らしく国際的に活動するためのヒント—

☆講師プロフィール

氏名：吉田 一彦（よしだ かずひこ）

所属：宇都宮大学国際学部 教授、
国際キャリア教育運営委員会委員長

略歴：

日本国、本州の北、太平洋岸出身のエミシとヤマトの後裔。東京外国語大学大学院地域文化研究科修了。博士（言語学）。ベアシスト。大学院在学中に国際交流基金日本語教育専門家として派遣され、在カラチ総領事館（パキスタン）とチュラーロンコーン大学（タイ）にて客員講師。学位取得後の2002年に宇都宮大学留学生・国際交流センターに着任。2017年より国際学部教授。2007年より JICA 青年海外協力隊事務局技術専門委員（日本語教育）。



全体講義の内容

この講義は、参加する皆さんが自分自身の国際キャリアの一步目を踏み出すきっかけになるかもしれません。また、セミナー全体への入り口に位置するものです。

皆さんにとって「キャリア」とは何でしょうか？この質問にまず自分で答えてみましょう。英語の単語ですから、辞書で確認してみましょう。よく使われているオンラインの辞書によると the part of your life that you spend working (Collins English Dictionary) と定義されています。working は、職業的な活動よりも意味が広く、作品を作ることや、個人的、あるいは、共同の作業なども意味します。となると、単に職業人として働くということに止まらず、自分以外の他者や、その他者と共有するコミュニティを意識した活動全般のこととも捉えられます。講義では、このような、キャリアとは何かについて考え、理解を深める活動をまず行います。

次に、「国際」が付いていますので、自分自身が生まれた国の国境を踏み越えて外へ出ていくことや、国境から外に出てきた人を迎え入れたり、その人と伝え合ったり付き合ったりすることが、必然的に関わってきます。それは、1つの国の中に留まり、同じ国に生まれた人とだけ関わるということと、本質的に何が違うのか、社会的・文化的・歴史的背景が異なる人たちに接して、その人たちに自分は何を提供できるのか、その人たちからどんなことを学べるのか、共同作業を通して何を作り出せるのか、こうしたことについて考えてみるための活動をします。

3つ目に、皆さんがこのセミナーに参加することにどんな意義があるのか考え、同じようにこのセミナーに参加している人々と考えを交換し、そして、ひとりひとりが自分なりの国際キャリアってこんなものであり得るのではないかと、いうぼんやりとしたイメージが持てるような活動をします。そして、ぼ

んやりとでも浮かんできたことを土産に、後に続くパネルトークで人生の先輩たちの話を聞き、分科会で新たな学びを得てほしいと思います。

参考文献

この講義のための決まった参考文献はありません。自分らしさに気づかせくれた本がもし皆さんにあるなら、それが最良の参考文献でしょう。

グローバルキャリアをデザインする： イノベーションの最前線で『働く』とは？

☆講師プロフィール

氏名：キム ヒジョン（きむ ひじょん）

所属：Google 合同会社 New Business Strategist

略歴：

東京大学卒業後、東レ株式会社でキャリアをスタートし、その後、ベトナムで事業を立ち上げ、スタートアップを運営。その後、Google Japan へ入社、現在は韓国・日本市場の新規顧客のマーケティングを支援するセールsteamをリードしている。



1. 仕事の概要

Google で韓国・日本市場における新規顧客のマーケティングを支援するセールsteamを統括しています。具体的には、Google の広告ソリューションを活用して、お客様のビジネス成長を加速させるための戦略立案、実行、チームマネジメントを行っています。この仕事の面白さは、最先端のデジタル技術を活用し、多様な業界の企業様の課題解決に貢献できる点です。また、常に変化する市場環境の中で、新しいマーケティング手法や戦略を開発していくダイナミズムも魅力です。意義としては、Google のサービスを通じて、企業の成長を支援することで、経済全体の活性化に貢献できると考えています。

2. キャリアパス

【学生時代】

韓国から 2009 年に日本に渡り、東京大学に入学。大学では社会学を専攻。就活時は、「働く」ことのイメージが漠然とした状態で、とりあえず日系企業で社会人として様々なことを学びたいと考え、メーカーや商社を中心に就職活動を行う。

【東レ株式会社】

入社後、半年間の工場実習を経てグローバルオペレーション部に所属。毎朝 9 時前に出社し、終電で帰宅するという社会人 1 年目を過ごし、最も体を壊した時期でもあったが、やり甲斐のある仕事で上司や先輩にもめぐまれていた約 3 年間。日系製造業の現場の働き方、生産管理、法人営業について学ぶ。

【スタートアップへ】

2016 年、日本の事業家と知り合い、ベトナムでスタートアップを設立。2 年間、ゼロから事業を立ち上げ、サービスを作り、チームを拡大しながら運営。チャレンジングな日々を送る。

【外資系へ転職、再び日本】

2018 年、グーグル合同会社へ入社。日本と韓国の数百社にわたる企業の新規マーケティング施策をコンサルティングする業務に就き、自由で楽しい働き方を体験する。

3. 分科会の内容

本分科会では、講師の経験をもとに、グローバルキャリアの魅力と、異文化コラボレーションやイノベーションを生み出すためのスキルや考え方を皆様と共に探求し、今後のキャリアをデザインします。

学生の皆様が将来、国際的な舞台で活躍するためのキャリアを考える上で、Googleのようなグローバル企業では、どのようなタレントを持った人材が働いていて、どのような働き方をしているのか、様々な働き方・ケーススタディーを通して皆様の仕事に対する視野を広げて、未来に備えていただくために一緒に考えましょう。

4. 事前に調べてほしいキーワード

- 職場と職業
- キャリアパス
- ダイバーシティ&インクルージョン
- Googleの企業文化（10X、心理的安全性）

5. 参考資料等

- ワーク・ルールズ! 一君の生き方とリーダーシップを変える（東洋経済新聞社・ラズロ・ボック）
- ニューエリート グーグル流・新しい価値を生み出し世界を変える人たち（大和書房・ピョートル・フェリクス・グジバチ）

6. 予習用リーディング課題

下記のコンテンツを参考に、自分のキャリアについて考えてみましょう。今後3年間、そのキャリア計画のために何を始めてみたいか共有しましょう。

- 計画的偶発性理論・JD クランボルツ

<https://www.youtube.com/shorts/r6AG2NtA0c0>

[その幸運は偶然ではないんです！——夢の仕事をつかむ心の練習問題（JD クランボルツ）](#)

- 人生の経営戦略（山口周）

自分の強み、個性、ライフステージを見据えた国際協力

☆講師プロフィール

氏名：カバリエロ 優子（かばりえろ ゆうこ）

所属：宇都宮大学共同教育学部 准教授

略歴：

学部卒業後パラグアイ共和国で青年海外協力隊家政隊員、日本で家庭科非常勤講師、牧場勤務等を経て大学院に進学。専門は栄養学（博士：学術）。

現在、3D 栄養表示システムの開発、お茶の抗酸化作用などを研究中。2025

年から JICA 草の根技術協力事業（支援型）でパラグアイ共和国において栄養改善のための教育活動を実施予定。



1. 仕事の概要

宇都宮大学共同教育学部、家政分野の食生活領域担当の教員として 2020 年に着任しました。大学教員の仕事は、研究、教育、大学運営、社会貢献と多岐にわたっています。専門分野の研究では、肥満や生活習慣病が課題となっているパラグアイ共和国において食事とエネルギー消費量についての現地調査・栄養分析を行い、統計学的手法を用いて食事や生活習慣の課題を明らかにしようとしています。また、緑茶、マテ茶、藍の茎茶などのお茶の研究・開発、アレルギー・ベジタリアン・ハラール対応ビーガン餃子の開発、ユニバーサルな 3D デジタル栄養表示アプリケーションの開発を行っています。教育に関わる研究としては、特別支援学校における衣食連携活動や附属小・中学校との連携プロジェクト研究を行っています。教育活動では、栄養学、調理実習、食生活環境実験、食ゼミ等の授業を担当しつつ、卒論や修士論文の指導を行っています。今年度はアフリカや中国からの留学生、研修生を受け入れており、国際栄養や食文化の違いなどを、ゼミを通して学びあっています。

2. キャリアパス

国際協力を目指そうと思ったきっかけは高校生の時にガールスカウトでネパールのワークキャンプに参加したことです。日本とは全く違う世界に衝撃を受け、国際協力に携わりたいと考え大学で栄養学を専攻しました。卒業後、青年海外協力隊でパラグアイ共和国家政隊員として自給自足を営む中高一貫の国立農業学校に赴任し、栄養と農業が深くつながっていることを再認識しました。また、パラグアイは肥満が課題であり、糖尿病などの生活習慣病で若くして命を落とす多くの方々がいることを知り、自分に何ができるだろうかと考えるようになりました。

帰国後結婚し、育児をしながら印刷会社の多言語翻訳校正のパート、家庭科の非常勤講師、牧場などで働いていましたが、もう一度栄養学を学び直したいと考え、長男の中学入学と同時に大学院に再入学しました。

14 年ぶりの再勉強では、栄養学、化学、数学、英語、スペイン語、PC の操作などをすべて一から学び

直す必要があり、挫折しそうになることもありました。学生時代に解明されていなかった新しい研究の知見や栄養疫学を学ぶことができる楽しみがありました。大学院在学時は恩師のご指導のもと、ルワンダ共和国の食事に関する現地調査を行ったり、パラグアイ共和国で、5か月間各家庭を訪問しながら食事調査を行ったりしました。現地調査は、新しい出会いや、初めて口にする食べ物、日本では得られない経験など楽しいことも多かったですが、先の見えない不安との戦いでもありました。なんとか研究を続けられて卒業できたのは、様々な方々の温かいご協力とアドバイスがあってこそだと感謝しています。

大学院卒業後、宇都宮大学共同教育学部に働かせていただけるようになって、ずっと関心のあった教育に携わることができるようになったことは、新しい楽しみとやりがいにつながっています。高校以来、栄養学を学んで国際協力の仕事に携わりたいと考えていましたが、食の研究と教育という想像もしていなかった形で夢が実現しつつあることに私自身驚いています。今年度からは、JICAの草の根技術協力事業（支援型）でパラグアイの栄養教育活動を行う予定です。

現在、仕事以外の活動として、夜間中学や多様な学び研究会での学習サポートなどを行っており、様々な国籍、職業の方々とコミュニケーションを楽しみつつ、日々新しいことを学ばせていただいています。

3. 分科会の内容

国際協力の方法や携わり方は、興味や関心、スキル、専門分野等、人それぞれに異なります。さらに、人生100年といわれる時代になり、個人の価値観やライフスタイルも多様化しています。これからのキャリア形成のためには、ライフ・シフトという柔軟な生き方に基づく国際協力の在り方を考えていく必要があるのではないかと考えています。

分科会の前半は、①国際協力の道を歩むために必要な問題意識・職業観、②コミュニケーション等の必要なスキル、③仕事と地域、世界とのつながりについてお話しさせていただきたいと思います。グループディスカッションでは、自分が大事にしている価値観、生き方、人間関係、強みを考えつつ、ライフステージを見据えた国際協力について、参加者一人一人が自分視点で考えていけるような活動にしていきたいと思っています。

4. 事前に調べてほしいキーワード

国際協力／ライフステージ／ライフ・シフト／自分の強み／価値観

5. 参考資料等

- リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット、2016『LIFE SHIFT(ライフ・シフト): 100年時代の人生戦略』東洋経済新報社.

6. 予習用リーディング課題

About LIFE SHIFT 今こそ、自分の人生を生きよう

<https://str.toyokeizai.net/-/book/life-shift/about/>

5の参考資料は、必須ではないですが推奨課題とします。

異文化を繋ぎ、価値創造に展開するコーディネーター講師

☆講師プロフィール

氏名：岩井 俊宗（いわい としむね）

所属：認定 NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事

略歴：

1982 年生まれ。栃木県宇都宮市出身。2005 年宇都宮大学国際学部卒業後、ボランティアコーディネーターとして宇都宮市民活動サポートセンター入職。NPO・ボランティア支援、個別 SOS に従事。2008 年より若者の成長機会創出と持続的に取り組む人材を輩出し、若者による社会づくりの加速を目的に、とちぎユースサポーターズネットワークを設立。2010 年 NPO 法人化。代表理事を務める。その他、認定 NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房理事、栃木県協働アドバイザー他、多数。



1. 仕事の概要

若者の力を活かして、地域の課題解決・活性化を加速することを使命とし、「若者の挑戦」と「新たな力・新たな変化を求める地域の現場」をつなぎ・育むプログラムの開発・コーディネート事業を実施。

【独自事業】実践型インターンシップ GENBA CHALLENGE(2012～)、ソーシャルグッドスタートアップキャンプ「iDEA→NEXT」(2012～)、ソーシャルビジネスセミナー(2014～)

【受託開発事業】宇都宮大学課題発見・解決型インターンシップ(2013～)、栃木県 UJI ターン促進事業「はじまりのローカルコンパス」(2015～)、宇都宮市起業家精神養成講座「起業の実際と理論」(2015～)、那須烏山市ローカルベンチャー育成事業(2016～)、栃木県地域づくり担い手育成事業(2016～)、宇都宮大学 宇大未来塾(2017～)、コカ・コーラジャパンボトラーズ CSR 事業「ミライ×キャンパス」(2017～)、栃木県創業プロデューサー事業(2019～2021)、栃木県グリーンツーリズムネットワーク組織づくり事業(2020～)、那須烏山市民話デジタル配信(アニメーション制作)事業(2020～2021)、とちぎデジタルハブコーディネート事業(2022～)、うつのみや未来創造プロジェクト(2022～)などまちの新たな事業開発実施や触媒機能を担う。

創設から 16 年、関わってきた 20 代～30 代の若者は、52,734 人(活動時間 176,783 時間)を越える。その内、自らの意志と力で課題に立ち向かう起業した若者が約 80 組輩出。また組織の次の一手を創り出す現場に若者が長期間参画する実践型インターンシップや行政施策のプログラム開発など、多様な組織に若者の力を取り入れた変化を提案・実施するプログラム開発と運営、それらを通じて化学反応として新たな価値を創出する「触媒」の機能を持ったコーディネート力は、他県からの講演依頼や『ソトコト』などの全国紙にも取り上げられることを踏まえ、高いものと自負している。これらの実績から、変化を創り出していくコーディネート事業に加え、若者と民間企業、また行政(国、県、市)、大学、をパートナーとし協働による事業推進をしていることが独自性であると捉えている。

<受賞歴> 中小企業庁表彰 創業機運醸成賞 (2018.2.9、全国 22 団体)、

下野新聞社「とちぎ次世代の力大賞」奨励賞(2018.5)
栃木県経済同友会「社会貢献活動賞」(2020年)
北村地方創生担当大臣視察(2020年) 等

2. キャリアパス

1982年宇都宮生まれ。4人兄弟(長男)、7人家族。幼少期は、ガキ大将。森に基地を創って遊ぶ。小学生の時は、サッカー、中学生はバスケットボールに打ち込む。当時の夢は、冒険家と医者。中学の時、生徒会長を務め、リーダー的役割を主体的に捉えるようになる。高校時は、JRC部(青少年赤十字)の活動にはまる。高2年の夏、赤十字派遣でネパールへ。3週間現地で井戸掘り、学校見学、献血事業視察。将来、“途上国で働く”ことを描き、現地の日本人の駐在員にどうしたらその仕事に就けるか手紙を書く。“大学生で世界の勉強してください。英語プラスもう1ヶ国語”のお手紙を頂き、大学に行く意味を見つけ、地元に行ける大学(宇都宮大学国際学部)へ入学。大学生(宇大国際学部、友松研究室):NGOマネジメント、住民主導の開発を専攻。2年生くらいから国内問題にも目を向ける。特にNGO・NPOなどの市民による社会課題解決に可能性を感じるものの、職業として成り立っていない現状から“NPO・NGOで飯を食うモデルになる”と自分に旗を立てる。

2005年大学卒業後、ボランティアコーディネーターとして、NPO・ボランティアを支援する宇都宮市民活動サポートセンター入職。制度では支え切れないSOS(年間100件程度の相談)に、ボランティアチームを組み対応する。その中で大学生等若者が関わると突破できる数多い体験から、2008年若者の成長の機会創出と持続的に取り組む人材を輩出し若者による社会づくりの促進を目的にした事業を行うとちぎユースサポーターズネットワークを設立。2010年NPO法人化。現在代表理事を務める。現在43歳、妻(国際学部同級生)16歳の高一息子、10歳の小4娘と4人暮らし。学生時代の趣味は、国内外を旅すること(屋久島、ママチャリで富士山・成田空港・レインボーブリッジ、アメリカ、韓国、マレーシア、シンガポール、ベトナム)。

3. 分科会の内容

- 「違い」を「強み」にしていくコミュニケーションにおいて、質問力、言葉の意図を読み解く力、建設的に意見を積み上げていく思考、相手のHAPPYを提案していく力を養う。
- 演習(ワークショップ)を通じて、異なる物事を組み合わせ新たな取り組みの育む思考とプロセスを体感する。加えて、その取り組みが誰の理想の状態に近づけるものなのかも考え、取り組みにおける「価値」の理解を深めていく。
 - ▶ コミュニケーションとは何か。
 - ▶ 人が喜びを感じるメカニズム、マズローの5つの欲求、ジョハリの窓など。
 - ▶ アイデアを形にしていくプロセスと提案書の作り方

事前に調べてほしいキーワード

- コーディネート
- ファシリテーション
- 価値創造

5. 参考資料等

必須ではありませんが、以下をお読みいただけますと、よりスムーズな理解ができます。

- 早瀬昇/筒井のり子「ボランティアコーディネーション力第3版：市民の社会参加を支えるチカラボランティアコーディネーション力検定公式テキスト」2024年

6. 事前課題

- 自身の自己紹介をご用意ください(氏名、所属、大学で学んでいること、分科会を選んだ理由、将来の展望、今回持ち帰りたいこと)

「共感」から考える多文化共生

☆講師プロフィール

氏名：梁 鎮輝（りょう ちんき）

所属：宇都宮大学 国際学部 助教

略歴：

宇都宮大学国際学研究科にて博士（国際学）を取得。明德義塾中学・高等学校教諭を経て 2024 年より現職。専門は日中比較思想史研究で、150 年ぐらい前の人々は何を考え、どのような社会を目指していたのかを読み解こうとしている。



1. 仕事の概要・研究テーマ

宇都宮大学国際学部で主に中国語や中国文化などの授業を担当しています。研究は日中の近代文学者や知識人を取り上げ、東アジア思想交流の実態を明らかにしようとしています。国際化・グローバル化が叫ばれる現在の状況と同様に、彼・彼女たちは国境を越えて近代化に伴う諸課題に対して深い苦悩を共有しつつ、各自の理想とする社会への構築を目指していました。ある国や地域への知見を深めつつ、学生たちと共に「知の越境」という視点に基づいて日々勉強しています。

2. キャリアパス

【広州時代】『クレヨンしんちゃん』と中島みゆきが好きだという理由から高校では日本語コースを選択。しかし、半年かかってもひらがな・カタカナすら覚えきれず挫折していた。日本語を嫌いになりかけながらも学習をなんとか続けた。

【千葉時代】2010 年に来日。成田空港に着いて、都会の空気を感ずる暇もなく、送迎の車に連れられて鴨川という、当時の私のイメージした「日本」とはかけ離れている場所に到着した。大学生活が始まった半年後に 3.11 東日本大地震、福島第一原子力発電所事故が相次ぎ発生し、一時帰国を余儀なくされた。その二カ月後に日本に戻り、ボランティアとして震災地を訪ねた。

【栃木時代 1.0】大学卒業を目前に、進学を頭の片隅に置きながら就職活動を進めていた。最終面接まで進んだ企業に落とされ、在留資格のタイムリミットに迫られ、急遽進学することへ舵を切った。その時、まさかこれから大学で修士・博士課程を合わせて 7 年間を過ごすことになると思わなかった。博士 3 年目に本格的に博士論文をまとめようと思った矢先に、コロナ禍、父の病気などにより学業に専念できない日々が続いていた。

【高知時代】コロナが明け、家庭の状況も落ち着いてきた頃、運よく高知県にある明德義塾高等学校への就職が決まった。職場は想像以上に辺鄙な場所にあり、生活上の様々な不便を感じながらも、山と海の絶景そして明るくてパワフルな高校生たちに癒され、いつのまにか高知を好きになった。植木枝盛の言葉「自由ハ土佐ノ山間ヨリ発シタリ」にあるように、厳しい環境だからこそ高知は自由民権運動発祥の地

となり得たのだと身をもって感じた。仕事をしながら、なんとか博士論文の提出もできた。そうこうするうちに30代を迎え、何か新しいチャレンジと思い、マラソンの練習を始めた。高知龍馬マラソンに出場し、なんとかボロボロになりながら走り切ることができた。

【栃木時代2.0】大学への転職活動がかなり難航している中、母校である宇都宮大学で教える機会をいただき、古巣へ舞い戻った。授業や学内業務をこなしながら、落ち着いて自身の研究ができる道を模索中。気晴らしにマラソン練習を続け、次の目標は宇都宮マラソン大会。

3. 分科会の内容

分科会では、まず現代における多文化共生の目指す意義を確認しつつ、視点を過去へと向け、新しいヒントへの発見につなげたいと考えています。ネット上に散見する在日外国人を排除する言動は、一部の人間の行為と主張に限定してしまえば話はそこまでですが、ただわれわれは流言蜚語が無限に膨張し、関東大震災朝鮮人虐殺事件のような大きな悲劇を生んだ血の歴史を忘れてはいけません。

そのような過ちは、日本だけでなく、すべての国そしていつの時代でも起りうることです。歴史が教える「排除」の愚かさを認識し、一個人として無数の見知らぬ他者の人生を真摯に想像し、彼・彼女たちと苦しみや喜びを共有していくことが多文化共生社会の実現の第一歩となると考えています。その「共感力」をどのようにして培うことができるのか、皆さんの日常的な経験から考えていきたいです。

4. キーワードリスト

共感力／越境文化（文化の越境）／他者性／文学的想像力／オーラルヒストリー／ライフストーリー

5. 参考資料等

<書籍>

李琴峰『日本語からの祝福、日本語への祝福』朝日新聞出版、2025年

三浦英之『涙にも国籍はあるのでしょうか』新潮社、2024年

丹野清人『「外国人の人権」の社会学』吉田書店、2023年

温又柔『私のものではない国で』中央公論新社、2023年

月刊イオ編集部『日本の中の外国人学校』明石書店、2022年

温又柔『台湾生まれ 日本語育ち』白水社、2018年

田中宏『在日外国人：法の壁・心の溝』岩波書店、2013年

リービ英雄『我的日本語』筑摩選書、2010年

<映画・ドキュメンタリー>

『港に灯がともる』（2025年）、『在日ブラジル人弁護士が見たニッポン』（2023年）、『福田村事件』（2023年）、『鬼が笑う』（2022年）、『マイスマールランド』（2022年）、『ファミリア』（2022年）、『ワタシタチハニンゲンだ』（2022年）、『僕の帰る場所』（2021年）、『WHOLE／ホール』（2021年）、『海辺の彼女たち』（2020年）、『take a picture/あるベトナム人留学生の物語』（2017年）、『あなたを忘れない』（2007年）、『I am 日本人』（2006年）

6. 事前予習用リーディング課題

在日外国人を描く様々なコンテンツ（ノンフィクション・フィクション問わず）を手掛かりに、「外国人として日本で生きること」について自由に想像してみてください。そして自身の思ったことをなるべく丁寧に言語化し、分科会の際に語ってもらいます。

英語が苦手でも英語で国際交流・国際協力していこう

☆講師プロフィール

氏名：吉田 一彦（よしだ かずひこ）
所属：宇都宮大学 国際学部 教授
国際キャリア教育運営委員会委員長
略歴：
全体講義講師プロフィール参照。



1. 仕事の概要・研究テーマ

一般言語学と外国語教育学を専門とする宇都宮大学国際学部の教員です。専門研究において強い関心を持っているのは多言語コミュニケーションで、パキスタン、マレーシア北部、セネガル、キルギス、アイルランド、ベルギー、フィリピン北部、スリランカなどの多言語使用地域で調査をしてきました。英語による教育と取り組んでおり、授業の半分は英語でしています。23年の教師生活の間に15を超える国出身の学生を自分の研究室に受け入れ、論文指導をしてきました。それから、約15年間、政府の国際ボランティア、JICA 海外協力隊（日本語教育）の選考や研修や活動サポートの仕事をしています。世界が、そして、人間が私たちの想像を超えて多様であることを知り、それに驚かされ続けていられることが、私の仕事のおもしろさであり、意義でもあります。

2. キャリアパス

18歳のとき、自分の仕事のための専門分野として法律学を熱心に学び始めましたが、学べば学ぶほど社会正義の概念が自分の中で曖昧なものになっていき、それとともに、法律が何通りにも解釈できる言葉として書かれているのが気になり、言葉自体に関心を持つようになりました。法律学の勉強を止めたので、大学はぎりぎり卒業したものの、何の得意分野もない20代半ばの自分には将来の展望など見出せませんでした。そして、言葉に対する関心が高まりつつも、人付き合いで言葉で誤解を受けたためコミュ障になったとき、自分が唯一日本語しかできず、世界のほとんどの人と話が通じないことに我慢がなくなり、外国語を学ぶために国を出ることに決めました。

そんなとき読んでいたフランスの冒険小説（ル・クレジオ『逃亡の書』）に見つけたのが「風景をむさぼる、それこそぼくに必要なことだ」という言葉です。その一節に背中を押されて留学したのが、私を知る人が誰もいない南フランスのモンペリエ、幸運にもその当時で140の国籍の人が住むと言われた超国際都市でした。そこで過ごした10か月の間に、30か40ほどの異なる国出身の人々と付き合い、今も使い続けているフランス語を身につけたほか、今の専門につながる言語学の勉強も始めました。帰国の翌年に、言語学専攻に学士入学し、大学院に進学してからは、略歴にあるとおりです。

英語については、フランス留学中に母語話者の友人たちと出会い、話し相手と先生を同時に得たことが自分を大きく変えました。これまでで最も速く上達できたのは間違いなく 50 代。60 代にはもっと上達してやろうと企んでいます。

3. 分科会の内容

分科会は日本語で話しながら進めます。参加する皆さんの現時点で英語を話すことによってできること、そして、英語でやってみたいコミュニケーションがどんなものかの確認から始め、国際交流や国際協力の場で役立つコミュニケーションの仕方を共に考えます。身につけることにした英語表現を声を出して練習したあと、英語によるコミュニケーションのシミュレーションを繰り返し、それに対して講師からフィードバックしていきます。

最後の発表は、分科会の活動によってできるようになったことと、分科会での学びを終えた自分のアクションプラン（つまり、セミナーを終えた自分は次に何をするのか）を中心に話してもらおうと考えています。

進め方の詳細については、分科会のメンバーが決定してから、その人の既存の知識や技能、希望に応じて決めたいと思います。

4. 事前に調べてほしいキーワードのリスト

- 共通語と標準語
- CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）
- 第一言語（Language 1）と第二言語（Language 2）

5. 参考資料

塚本 亮（2021）『ネイティブなら 12 歳までに覚える 80 パターンで英語が止まらない！』高橋書店

中井 俊樹（編集）（2009）『大学生のための教室英語表現 300』アルク

吉田 一彦（2024）「信頼を築くための共通語の決め方」宇都宮大学国際学部（編）『国際学への扉を開く』下野新聞新書

6. 予習用課題

セミナー当日までに、以下の図書の中から 1 冊選んで、通読しておいてください。そして、分科会で選んだ本がどのように自分に役立ったかを簡潔に報告してください。本によっては貸し出せるものがありますので、借りたい人は、7 月 23 日の事前指導のときに講師に直接相談してください。

岡本 浩一(2002)『最強の英語上達法』PHP 新書

塩田 勉(2001)『おじさん、語学する』集英社新書

竹内 理(2007)『「達人」の英語学習法』草思社

白井 恭弘(2008)『外国語学習の科学 第二言語習得論とは何か』岩波新書

白井 恭弘(2025)『新版 外国語学習に成功する人、しない人——第二言語習得論への招待』岩波科学ライブラリー

リーディングではないもう1つの課題：

英語で話してみたい人物を1人決め、自分のことをその人が覚えてくれるような1分程度の英語の自己紹介を用意してください。自己紹介する相手の人物は、実在の人物でも、想像上の人物でも、歴史上の人物でもかまいません。「ガザから救出された孤児」のような特定のタイプの人に対して、というのでもかまいません。

多様な集団で交流する能力を身に蓄けよう

☆講師プロフィール

氏名：林 明夫（はやし あきお）

所属：株式会社開倫塾 代表取締役

略歴：

栃木県立足利高校、慶應義塾大学法学部法律学科卒業。大学卒業後、慶應義塾大学法学部司法研究室生。29歳の時、栃木県足利市で開倫塾を創業。塾長に就任、今日に至る。

世界銀行研究所、ハーバード大学行政大学院国際開発研究所、国立シンガポール大学大学院などで、公共部門の民営化短期集中コースを修了。マニー株式会社（手術用縫合新製造）社外取締役（2004年～2010年）、栃木県教育委員会栃木県社会教育委員（2004年～2012年）、公益社団法人経済同友会（東京）幹事（2004年～2023年）。

現在は、開倫塾日本語学校理事長・校長。開倫ユネスコ協会会長。学校法人有朋学園有朋高等学院理事長（福島市）。公益社団法人栃木県経済同友会理事。公益財団法人文字活字文化推進機構評議員。足利商工会議所議員、足利5S学校役員。日本商工会議所多様な人材（女性・障害者・シニア・外国出身者）活躍推進専門部会委員。一般社団法人栃木県生産性本部会長。



1. 仕事の概要

小学生・中学生・高校生対象の学習塾を、栃木県全域、群馬県東毛地区、茨城県西部地区、東京都川の手地区で1979年から展開。開倫塾の教育目標は「自己学習能力の育成」。塾生である間に、「効果の上がる学習方法」を身に着けること、「学び方を学ぶ」を身に着けることを目指します。開倫塾の先生方は、みな教育熱心。自分なりの「教え方日本一」、「塾生の成功の実現」、「地域の教育力向上」をめざします。開倫ユネスコ協会の活動を、各校舎でも熱心に行っております。

開倫塾日本語学校は2018年に栃木県足利市に設立。現在80名の留学生と、20名位の地域に住む外国出身の聴講生、企業で働く外国出身の皆様での企業内日本語教育を数社で展開。先生方は、皆、親切で教育熱心。開倫塾日本語学校では、日本語の学習に加え、地域の伝統文化に親しむこと、日本での仕事に役立つ、「5S（ごえす）」、「Sではじまる5つのことば」つまり、「整理（いらぬものを捨てる）、清掃（きれいに掃除）、整頓（ものは同じところに置く）、清潔（それらを継続）、躰（自分から進んで行く）」も、少しずつ指導しています。開倫塾日本語学校では、開倫塾の先生方有志が2001年に設立した「開倫ユネスコ協会」の活動を、留学生の皆様とともにしているユニークな日本語学校です。

2. キャリアパス

「入社前（創業前）」

高校生の頃から学習塾の先生のお手伝いをしていたことがきっかけで、大学生の時には、都内の学習塾

で時間講師、大学卒業後は、大学受験予備校で講師、時間講師を頼まれた足利市内の学習塾では、教室長を経験。創業直前には、足利市内を中心に、小学生から大学受験生まで、毎日のように家庭教師をさせていただいておりました。

「開倫塾創業後」

塾長として、小学生から大学受験生まで文型科目を中心に指導。同時に、学習塾の経営について学ぶために、学習塾の同業者団体に加盟し、ほぼ毎週のように全国の学習塾を視察。

「開倫塾日本語学校設立前後」

20年にわたり幹事を務めた、公益社団法人経済同友会（東京）アフリカ委員会などで、日本語教育の重要性を認識。さらには、議員を務める足利商工会議所の代表として参加している、日本商工会議所多様な人材活躍推進専門部会では、外国人材活躍推進に関連し、技能実習制度の廃止と育成就労制度及び特定技能制度の設立推進を政府に提言、詳細な制度設計の議論を、毎月のように重ねています。

「平和運動」を展開する「開倫ユネスコ協会」での、教育・科学文化・情報の推進活動、一般社団法人栃木県生産性本部での生産性向上運動や経営品質向上活動、経済の持続的発展を議論する「公益社団法人経済同友会（東京）」「公益社団法人栃木県経済同友会」「群馬経済同友会」「栃木県経営者協会」「足利商工会議所」など様々な経済団体での調査研究・政策提言活動、異業種交流活動は極めて有益です。

3. 分科会の内容

異文化理解教育の前提は、現代社会は「グローバル社会」であるという、基本認識です。グローバル社会で求められる能力は「多様な集団で交流する能力」と考えます。言語・宗教・文化・伝統・生活様式・教育・国籍などが異なった人々と、どううまくやっていくかが最大課題です。相手の立場を尊重するとは何か。どのような基本的態度で、相手の立場を尊重したらよいのか。「関係は本質に先立つか」という、異文化理解方法論の基本命題をご一緒に考えてまいりましょう。「エポケー演習」も取り入れてまいります。

開倫塾日本語学校の教育内容や、「5S活動」「ユネスコ活動」などもご紹介、外国出身の皆様との共生社会の実現の方策も議論したく存じます。

講師が社外取締役を務めた栃木県が誇る国際中堅企業マニー株式会社の経営戦略についても 2008年「ポーター賞」受賞理由書を用いてご説明。リスクマネジメントについては、毎年、1月初旬に発表される世界的な地政学のシンクタンク・ユーラシアグループ「2024、2025年世界の10大リスク」を用いてご説明。

4. キーワードリスト

- グローバル化社会
- 多様な集団で交流する能力
- 関係は本質に先立つか
- エポケー演習
- 外国出身者との共生社会
- 日本語委教育の課題
- カントリーリスク、リスクマネジメント

- 深い理解：学んだことを自分のことばでいえる（表現・説明できる）

5. 参考資料等

○ドミニク・ライチェン、ローラ・H・サニガニク著

「キー・コンピテンシー、国際標準の学力を目指して」明石書店、2006年5月31日刊

○内村鑑三著「後世への大遺物、デンマーク国の話」同著「代表的日本人」岩波文庫

6. 事前予習用リーディング課題

○マニー株式会社、「2008年ポーター賞受賞理由書」

<https://www.porterprize.org/pastwinner/2008/12/02111040.html>

○ユーラシアグループ「2024年10大リスク」「2025年10大リスク」

2024年

<https://www.eurasiagroup.net/siteFiles/Media/files/Top%20Risks%202024%20JPN.pdf>

2025年（2025 10大リスクで検索）

[https://www.eurasiagroup.net/siteFiles/Media/files/TopRisks2025JPN\(1\).pdf](https://www.eurasiagroup.net/siteFiles/Media/files/TopRisks2025JPN(1).pdf)

事前学習資料集のファイルは右の QR コードからダウンロード可能です。



2025 年度国際キャリア教育セミナー
「国際キャリア教育」事前学習資料集

発行日：2025 年 7 月 1 日

発行：宇都宮大学 国際学部

〒321-8505 宇都宮市峰町 350

TEL: 028(649)5172 FAX: 028(649)5171

E-mail: kokuca@a.utsunomiya-u.ac.jp

学部		学科	
学年		氏名	

